

1. 本園の教育目標

- 人として自立した生活を営むために、生活リズムと基本的な生活習慣を身につける。
- 体を目一杯使って活動することを通して、体力や気力を養う
- 他人の気持ちや考えを大切にすることを心や態度を養う
- 日本の伝統的な作法の基礎を学ぶ
- 他の生物の命を頂くことによって、自分の命が維持されていることに感謝する心を養う
- 他人とのよい関係を築いていくために、豊かな言葉を身につける
- 自然事象や美しいものに触れる中で、五感を磨く
- 美しいものや感動したものを表現しようとする意欲を養う

2. 本年度重点目標・計画

子どもたちと職員が主体的に様々な物事に関わり取り組もうとする園を目指し、カリキュラム・マネジメント（国の教育・保育課程基準を実現するために、園に関係する人材や物的資源等を最大限大切に活かす営み）を見直します。

- ① 国から示されている乳幼児教育における見方・考え方についての理解を深めるために、保育カンファレンス（保育に関する記録を基に保育や子どもについて語り合う会）を行います。その見方・考え方とは、幼児が身近な環境に主体的な関わり、環境とのかかわり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして試行錯誤したり、考えたりするようになるというものです。
- ② 子どもの主体的な姿を想像しながら週日案を作成します。
- ③ 清和幼稚園の年間指導計画を参考に、本園の子どもの実態に応じた年間指導計画を作成します。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況	評価
1	見方・考え方について理解を深める	<p>乳幼児教育における見方・考え方についての理解度には職員によって差がある為、各職員に無理のない形でエピソード記録会や月齢会を継続することにした。</p> <p>●エピソード記録会</p> <p>職員が“遊びを通して学ぶ”という意識を持てるようにする必要があると考えられた。まずエピソード記録会で使用する記録用紙の書式と記入する内容を変更した。子どもたちの様子を記述するところには写真を用いたり、教師の考察を記述するところは、“子どもが何を楽しんでいるのか”という本質を捉えることができるよう記述内容を簡素化したりした。“書くこと”に抵抗感がない状態と、少人数制で、縦割り学年のグループ討議にすることで、発達に見通しを持たせつつ自分の思いを話せる環境を設けた。会を重ねるごとに、職員の遊びに対する見方や、少しずつ発達を捉えた会話が増えてきた。12月より、学びのプロセスを促す5つの力（感じる・気付く力、うごく力、考える力、やりぬく力、人とかかわる力）の視点を導入し、現在、その視点からの討議も行えるようになっている。</p> <p>●月例会</p> <p>乳児クラスは特に養護（生活）に重点を置きがちになってしまう傾向が見られた為、まず指導計画、反省の項目において①生活②遊び③課業を分けて入力するようにした。全体に視野が向くようになり、それぞれの項目の視点を持ち保育を進めることが出来るようになってきた。特に遊びにおいて、少しずつ見方・考え方が持てるようになってきた段階である。</p>	B
2	<p>週日案の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週日案単位のPDCAサイクルを回す ・子どもの主体的な姿を想像し、記入する 	<p>●作成の上で、職員から立案の仕方（①前週の評価・反省⇒②前週の子どもの様子⇒③ねらい⇒④内容⇒⑤援助・環境構成）が分からなかったり、子どもの様子と発達を捉え文章に起こすことが難しかったりした様子があった為、園長・主任を交え添削したり、職員の思いを汲み取りながら一緒に文章に起こしたりしている。</p> <p>●週日案の記入項目にある“子どもの様子”や“反省・評価”において、子どもの主体的な姿（具体的な遊びの様</p>	B

		子や発達を踏まえた子どもの様子)を記入するように指導中である。	
3	年間指導計画の作成	清和幼稚園の年間指導計画を参考にし、本園の子どもたちの実態や様子を反映させながら、年間指導計画の修正・削除を行っている。	B

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取り組まれているが、成果が十分でない D: 取り組みが不十分である)

4. 総括的な評価

評価	理由
B	<p>本園の現状と課題を認識し、改善に向けた本質的な取り組みを行うことが出来ていると思われる。</p> <p>また、取り組みを通し職員の保育観、仕事に向かう意識や姿勢にも変化が見られており、職員の協働性を高める一歩となっていると考える。</p>

5. 次に取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	リーダーの育成と同僚性のさらなる形成	<ul style="list-style-type: none"> ・法人としての保育理念を園全体で共有し、保育、教育目標等の達成や行事運営についてのリーダー、ミドルリーダーを育成する。 ・教職員の同僚性のさらなる形成
2	指導計画の質的向上	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの見方、考え方を定着させる。 ・短期指導計画のPDCAサイクルを定着させる。
3	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策を見直し実践する。 ・保育現場に付随する、アレルギーやバス添乗や保健等に関するマニュアルの作成と見直しを行い、全体で共有する

6. 学校関係者の評価

【地域主任民生委員】

- 0～2歳児→赤ちゃんというイメージではなく、集団の活動（生活リズム等）がちゃんと出来ている。
- 3～5歳児→好きな遊びをそれぞれで遊びながら活発に満足して活動している。
- 外遊び
 - ・ 砂遊び（さらさらの砂の分別の仕方）（ままごと道具を使ってケーキ作り、葉っぱや木の実、砂、水等を使って遊ぶ）
 - ・ ボール遊び（ボールを持って遊んだり、数が多いので満足）
 - ・ 丘を網を使って登る…幼児クラスがやっている姿を見て、下のクラスの子どもたちも真似て登っている（ルールを守る）
 - ・ 縄跳び…複数では難しいがチャレンジしているところが素晴らしい。個人でも沢山跳べる。
- 先生方が常に子どもたちを見ているし、伝達もよく出来ている

【会社経営者（当園理事）】

- 週日案を用いて日々、保育の改善（PDCA）に努めていらっしゃる姿に今後の理想となる（理事長、園長、職員の皆様）形になるだろうと思います。
- 保護者の立場からの関点では、個々の状態をしっかり、都度知らせて頂ける手厚いサポートに感謝しております。園児が増えて活気がみなぎる素晴らしい園です。
- 園児さんの保育の充実は十分だと存じます。職員さんのリフレッシュできる場所を創っていくと良いアイデアや環境づくりができるのではないのでしょうか。

【国立大学法人 岡山大学 准教授（専門：幼児教育学）】

- それぞれの子どもの心持ちや発達に応じていこうとする意識が先生方全員から感じられました。保育の基礎的な部分が整ってこられたと思われます。そのこともあってか、全体の雰囲気落ち着いていました。今回の状態を基礎に更に発展されることを期待しています。
- 次に取り組むべき課題については、達成可能かどうかという観点から、念のため再検討しましょう。